

江戸川区 中小企業景況調査

2026年1月～3月 概要版

調査対象	製造業	117 社	卸売業	12 社
	小売業	55 社	サービス業	46 社
	建設業	45 社	不動産業	21 社
			合 計	296 社
調査時期	2026 年 3 月上旬			
調査方法	面接聴取法			
調査機関	(一社)東京都信用金庫協会			
分析作成	(株)サーベイリサーチセンター			

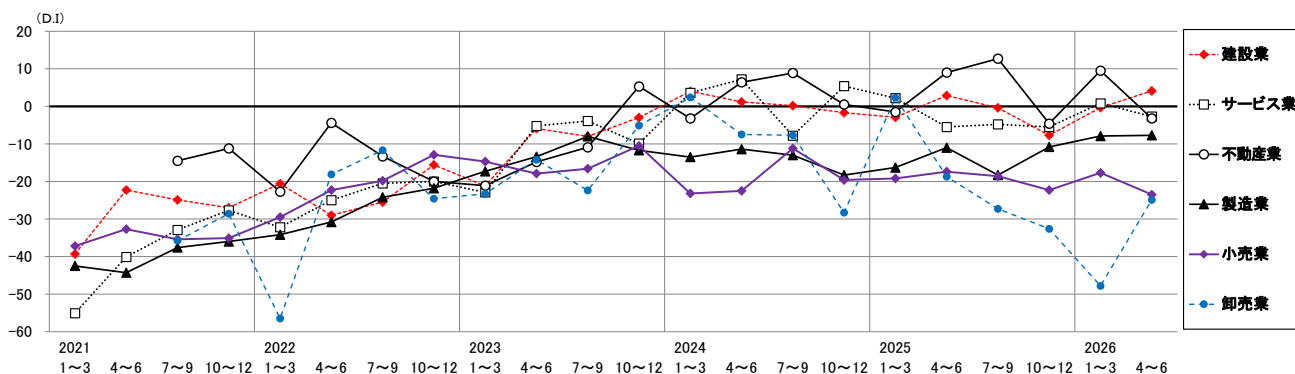
業況判断DIは前期(-12.1)から 3.8 ポイント上昇し-8.3 となった。

～不動産業が大幅に改善したが、卸売業で大幅に後退し水面下に落込んだものの、サービス業と建設業で大幅に改善し、小売業も多少改善した。～

業況判断DI(季節調整済、「良い」企業割合-「悪い」企業割合)は-8.3(前期-12.1)と前期より3.8ポイント上昇した。業種別に見ると、不動産業が大幅に改善したが、卸売業で大幅に後退し水面下に落込んだ。しかし、サービス業と建設業で大幅に改善し、製造業や小売業も多少改善した。

来期は、卸売業が改善を見込むが、小売業とサービス業、不動産業で下降を強めると見ている。

<江戸川区中小企業の景況・6業種推移(D.I.)>



※D.I.(ディーアイ)とは

Diffusion Index(ディフュージョン インデックス)の略。良い(又は「上昇」「増加」など)と答えた企業割合から、悪い(又は「下降」「減少」など)と答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて、良いと悪いのどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

江戸川区の企業倒産動向

2026年1～3月期の江戸川区の倒産件数は、前期比22.2%増の11件(前期9件)、負債総額は前期比46.9%増の6億86百万円(前期4億67百万円)であった。

業種別件数は“卸売業”“建設業”“情報通信業・運輸業”で2件ずつ、“製造業”“小売業”“不動産業”“宿泊業、飲食サービス業”“その他”が1件ずつで、負債総額は“小売業”が2億円で最も多く、次いで“建設業”(1億95百万円)であった。

景況感に持ち直しの兆しは見られるものの、債務負担や資金繰りの限界から実際の倒産に至る「景況感と経営実態の乖離」が鮮明になっているようだ。

	(単位：件・百万円)					
	前年同期 2025年1～3月		前 期 2025年10～12月		今 期 2026年1～3月	
	件 数	負債総額	件 数	負債総額	件 数	負債総額
製 造 業	1	130	0	0	1	80
卸 売 業	0	0	3	208	2	61
小 売 業	0	0	3	103	1	200
サ ー ビ ス 業	2	35	0	0	0	0
建 設 業	8	1,917	1	70	2	195
不 動 産 業	0	0	0	0	1	60
情 報 通 信 業・運 輸 業	0	0	0	0	2	20
宿 泊 業、飲 食 サ ー ビ ス 業	0	0	1	58	1	20
そ の 他	0	0	1	28	1	50
合 計	11	2,082	9	467	11	686

出典：東京都産業労働局「東京の企業倒産状況」(負債総額1000万円以上の倒産 (株)東京商工リサーチ調べ)

業種別の景況動向

	前期	今期	来期予想	景 況 動 向
製造業	-10.8	-7.9	-7.7	業況は悪化幅が多少縮小した。売上額は減少傾向がわずかに弱まり、受注残は減少傾向が大きく改善し、収益は減益幅が大幅に改善した。 来期の業況は今期同様の悪化幅で推移すると予想している。売上額は減少幅が多少縮小するが、受注残は減少傾向が多少強まり、収益は減益傾向が多少強まると見ている。
	E やや悪い	D 普通	D 普通	
卸売業	-32.6	-47.8	-24.9	業況は悪化幅が大幅に拡大した。売上額は極端に減少し、収益も減益幅が極端に拡大した。 来期の業況は水面下ながら大幅に改善すると予想している。売上額と収益も極端に改善すると見ている。
	G とても悪い	G とても悪い	F 悪い	
小売業	-22.3	-17.7	-23.5	業況は水面下ながら悪化幅が多少縮小した。売上額と収益は、ともに減少・減益傾向がかなり悪化した。価格面では、販売価格の上昇傾向がかなり弱まり、仕入価格の上昇傾向も大きく緩和した。 来期の業況は悪化幅が多少拡大すると予想している。売上額は減少傾向がわずかに強まるが、収益は今期並の減益水準が続くと見ている。
	E やや悪い	D 普通	E やや悪い	
サービス業	-5.5	0.8	-2.7	業況は大きく持ち直してわずかにプラスに転じた。売上額も増加に転じたが、収益は依然として水面下ながら減益幅が多少緩和した。価格面では、料金価格の上昇幅が若干縮小し、材料価格の上昇傾向も幾分弱まった。 来期の業況は再び水面下に後退すると予想している。売上額も増加から減少に転じるが、収益は今期より減益傾向が強まると見ている。価格面では、料金・材料価格ともに上昇傾向が引き続き強まると予想している。
	D 普通	C やや良い	C やや良い	
建設業	-7.7	-0.3	4.1	業況は悪化幅が大幅に縮小した。売上額と収益は大幅に改善し、施工高も持ち直してプラスに転じた。価格面では、請負価格の上昇傾向が大幅に強まり、材料価格は前期並の上昇で推移した。 来期の業況は持ち直してプラスに転じると見ている。売上額と収益は増加・増益が続き、受注残と施工高も増加が続くと予想している。価格面では、材料価格の上昇傾向が大幅に強まると見ている。
	C やや良い	C やや良い	C やや良い	
不動産業	-4.6	9.5	-3.2	業況は大幅に持ち直しプラスに転じた。売上額は、非常に大きく改善して増加に転じ、収益も水面下ながら減益から増益に転じた。 来期の業況は再び後退し水面下に落込むと見ている。売上額は減少傾向が強まり、収益も減益傾向が大幅に強まると予想している。
	C やや良い	B 良い	C やや良い	

(参考) D.I.に基づく景況判断指標

	A とても良い	B 良い	C やや良い	D 普通	E やや悪い	F 悪い	G とても悪い
製造業 卸売業 建設業	20 以上	19～10	9～0	△1～△10	△11～△20	△21～△30	△31 以下
小売業 不動産業	10 以上	9～0	△1～△10	△11～△20	△21～△30	△31～△40	△41 以下
サービス業	15 以上	14～5	4～△5	△6～△15	△16～△25	△26～△35	△36 以下